



2010～11 年度
国際ロータリー会長

レイ・クリンギンズミス

Weekly Report Niigata



2010～11 年度
新潟ロータリー会長

樋 熊 紀 雄

新潟 RC 9 月第 3 例会 (2010.9.21) No.2866

(1) ロータリーソング「我らの生業」斉唱

(2) 樋熊 紀雄会長挨拶

「医学教育について」

9 月 19 日、20 日の 2 日間、このイタリア軒を会場にして、第 7 回新潟医師臨床研修指導医養成講習会が開催されタスクフォースとして参加しました。

長い間医学教育は、教員中心型教育の「教えた」という教授錯覚で、学習者が「学び」そして「得た」という視点に立っていない教育と言われてきました。

1970 年台になり医師の質と量に対する社会のニーズは、社会の複雑化に伴って高まり、大学医学部や教育病院の指導スタッフには、より良い医師を、より多く育てる責務が増大してきました。長年にわたって発達してきた一般の教育学を基に、医学教育をよりよい方向へ修正し新しい方法論を導入していかなければ、世界に取り残されてしまうという危機感が持たれるようになりました。医学教育の指導者ウィリアム・オスラーは、20 世紀初頭から教育は講義室からベッドサイドへ、クリニカルクラークシップを実践していましたが、わが国ではこの頃になってようやく参加型医学教育に目を向けるようになってきました。

1987 年、当時の文部省、厚生省共催の第 14 回「医学教育のためのワークショップ」に参加する機会を得ました。このワークショップは、5 泊 6 日、富士山の裾野にあります帝人の研修所で行なわれ、全国から集まった医科大学、教育病院 50 名の参加者と寝食を共にしながら、朝 8 時半から夜 9 時過ぎまで分刻みのタイトな研修会でありました。余談ですが、このときはじめて朝焼けに映えた赤富士を見ることが出来、今でも脳裏に焼きついております。

このワークショップで学んだことは「教育とは学習者の行動に価値ある変化をもたらすプロセスである」という概念です。「行動」というのは、動作を行なうという行為だけではなく、知識やその理解、技能から態度・習慣のような情意的なものまで広い概念として捉えることです。

皆様ご存知の山本五十六氏は『やってみせ 言ってみせ 聞かせて させて見せ ほめてやらねば 人は動かじ』という語録を残しております。

それでは「価値ある行動変容」とは何か。

医学部教育では、学生は卒業時に何を知り、何が何処まで出来ればよいのかということです。目標は、医学教育の成果を受け取る社会の保健・医療に対するニーズであり、ニーズを十分に検討し、6 年間という期間の制約を考慮して目標が設定されることとなります。この教育目標は、学習者が目指していく各分野の卒後教育や研究などの目標、さらに生涯に渡って目指す最終目的に連続すべきものとして捉える必要があります。

目標達成のために学習者がどんな方法で学んだら目標に到達できるか、そして出来たか、を評価することが不可欠です。それによって行動変容を評価することになります。

努力目標とされた卒後臨床研修は、平成に入り必修化に向け議論されてきました。臨床研修の基本理念として、①医師としての人格を涵養②医学及び医療の果たすべき社会的役割を認識③一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できる④基本的な診療能力を身に付けることが掲げられました。インターン制度が廃止後 36 年あまり臨床研修の充実に向けて平成 16 年から 2 年間の卒後臨床研修が必須化されました。

この基本理念の達成に向かって先輩指導医はどのように対応して行けば良いかが問われ、全国各地で指導医養成講習会が開かれるようになりました。

卒後臨床研修必修化開始 6 年、病院間格差が生じた、医師の偏在など問題点も指摘されていますが、一時の要求に翻弄されず大所・高所からご検討いただき国民のニーズに応えられる医療の提供できますよう良い方向に進んでいって欲しいと願う者です。

9月28日の例会予定(夜の例会)

卓話「刻字は世界を結ぶ」 刻字作家 薄田 東仙 氏

(3) 委員会報告

・山田 隆一野球同好会幹事長
10月23日新潟市内RC親善野球大会をハードオフエコスタジアムにて開催します。

(4) 幹事報告(石川 治吉幹事)

東山ガバナーより11月20日、21日に開催されます地区年次大会に100%登録依頼が届いております。ご欠席で返事された方も、ご都合がつくようでしたら、是非、ご参加下さい。参加申し込みは幹事か事務局へお願い致します。

(5) 会員スピーチ

「環境ビジネスへの道」

(株)菱電社代表取締役社長 岡村 健吉君

ホームページを更新致しました！

新潟ロータリークラブ ホームページアドレス

<http://www.niigataarc.jp/>

環境ビジネスへの道のり

省エネルギー活動への取り組み

株式会社菱電社 岡村健吉

我が社の省エネルギー活動は、平成9年本社新築時に省エネビルにするとともに、お取引先の省エネをお手伝いすることから始まりました。昨今の環境問題から、一般にも二酸化炭素削減努力が叫ばれるようになって来ました。統計での世界の二酸化炭素年間排出量は264億トン、3.3%の割合で増え続けています。このままでは、2016年に世界の平均気温が産業革命以降1.5度C上昇し、地球規模での気象・気候の変動で、様々なリスクを背負うことになる、と専門家は指摘します。我々には二酸化炭素削減技術力の向上や、脱物質、脱炭素などの早急な対策が求められています。さて我が社は、省エネ機器・省エネ監視・太陽光発電システム等の販売を通じて環境問題に貢献し、自社でも天井照明の自動調光装置、蓄熱冷暖房設備、電気スタンド、遮熱フィルム等の導入、高性能なメインコンピューターへの置き換えや、きめ細かい点灯抑制などの活動を実施してきました。これからも省エネ活動を続けるとともに、お取引先の省エネをお手伝いし、地球温暖化防止に貢献したいと考えます。

(使用した数値データは山本良一東京大学生産技術研究所教授第4回環境委員会後援資料より流用いたしました。)